

「清潔」の援助技術に共通技術の要素を取り入れた教育方法の検討 - 3校の授業前後の比較 -

三浦まゆみ, 菊池和子, 平野昭彦, 伊藤道子, 高橋有里, 石田陽子, 三浦奈都子, 兼松百合子
中村令子*¹, 千葉ミツ子*², 平栄子*³, 荒谷寿子*⁴, 岩間亜由美*⁴, 高崎芳恵*⁵

A study-Education methods incorporating elements of common nursing skills into the nursing support skill "hygiene" -A comparison before and after the classes in three schools-

Mayumi MIURA, Kazuko KIKUCHI, Akihiko HIRANO, Michiko ITO, Yuri TAKAHASHI
Yoko ISHIDA, Natsuko MIURA, Yuriko KANEMATSU, Reiko NAKAMURA*¹, Mitsuko CHIBA*²
Eiko TAIRA*³, Hisako ARAYA*⁴, Ayumi IWAMA*⁴, Yoshie TAKASAKI*⁵

要 旨

一般に、基礎看護技術は「共通技術」「生活援助技術」「治療援助技術」に大別される。

従来の授業はそれぞれ独立した形で単元毎に教授しているが、本来「共通技術」は「生活援助技術」「治療援助技術」の中に取り込まれて教授することが望ましいと考えられる。そこで「共通技術」の中で、近年特に必要とされている技術を取り上げることとし、コミュニケーションを含めた「心理的ケア」、対象の自立を促す教育・指導を含めた「自立への援助」、身体状態をアセスメントする能力としての「フィジカルアセスメント」、¹「感染予防」の4つの「共通技術」を抽出した。

次に我々は「生活援助技術」の1つである「清潔」の単元を取り上げ、4つの「共通技術」を取り入れた事例を作成し、2校で授業を展開した。そして従来の講義と項目ごとの演習の授業を行った1校と比較し、その効果について検討した。

具体的には学生に「清潔」の単元の授業開始前と終了後に同じ事例を提示し、援助にあたっての留意点を、援助前・援助中・援助後の3つにわけて記述してもらった。記述された内容については、1つの意味をもつ文章を1と数え、共通技術ごとに授業開始前と授業終了後に記述した文章数の平均を算出した。授業前後の平均文章数を比較すると、「自立への援助」において終了後の平均文章数が多くなっている。さらに授業前後の一人一人の文章数の差を算出し、学校ごとのその平均値比較した結果、ここでも「自立への援助」において従来の授業よりも試みた授業を行った学校の方が平均の差が大きかった。留意点の数の増加数という視点からみると「自立への援助」において学習効果があることが示唆された。

キーワード：基礎看護技術、共通技術、清潔授業

I. はじめに

近年の科学技術ならびに医療の進歩と生活環境の変化に伴い、人々の生活と健康問題は大きく変化し、看護職へのニーズも著しく拡大・高度化している。このような状況に対応できるよう、看護基礎教育機関では教育内容や方法を柔軟に構成す

ることが奨励されている。

基礎看護学は、看護基礎教育課程において、各分野の看護学すべての土台となる領域であり、その内容の充実のために、教員の自由な発想が求められている。一方で卒業生の臨床実践能力の低下が臨床側から指摘され、看護技術教育の課題¹⁻⁵⁾が明らかになっているのが現状である。それに対

*1 岩手看護短期大学

*2 岩手県立水沢高等看護学院 (前岩手県立一関高等看護学院)

*3 岩手県立一戸高等看護学院

*4 岩手看護専門学校

*5 前岩手県立一関高等看護学院

して、平成15年3月に厚生労働省より「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」が示された。

我々は、看護系大学のシラバス調査の結果と平成11年度に12大学を訪問して行った面接調査の結果をもとに「看護基礎教育の現状と課題」を見出した⁶⁾。その課題の中から「基礎看護技術教育」の教育内容の改善に焦点を当てた取り組みを続けている。

シラバス調査の結果から、「基礎看護技術」は一般的に、コミュニケーション、フィジカルアセスメント、安全・安楽、感染予防、教育・指導、看護過程等の「共通技術」と食事、睡眠、排泄、清潔の援助技術等の「生活援助技術」及び与薬、検査時の援助技術等の「治療援助技術」の3つに大別されている。

この「共通技術」の中から「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」「自立への援助」「感染予防」の4つの技術に注目した。「感染予防」をとりあげたのは、看護技術の中の感染予防対策はスタンダードプリコーションの概念や技術の教育が不足していることも特徴的であったことに注目したからである。

これらの「共通技術」は、初期の段階に講義形式で説明されることが多い。しかし「生活援助技術」「治療援助技術」の具体的技術の実践過程において活用すべき基本的事項であることから、それぞれの教育内容に組み込まれて教授されることで学生の理解が深まるのではないかと考えた。

そこで今回、「清潔」の単元を例にとりあげ、共通技術との関連から現状と課題を検討した。そして「共通技術」を取り込んだ教育方法について検討し、「清潔」の授業の試案を作成した。その試案に基づいた授業を展開したが、この授業の効果について、従来の授業の方法との比較により検討した結果、いくつかの示唆を得ることができたので報告する。

II. 目 的

1. 「清潔」の単元の教育内容に関する現状と課題を、「共通技術」の中で注目した「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」「自立への援助」「感染予防」の4つの「共通技術」との関連から明

らかにし、教育方法改善への基礎資料とする。

2. 「清潔」の援助技術の単元に、4つの「共通技術」を取り込んだ授業を考案し、その考案した授業の効果を検討する。

III. 用語の定義

- ① 心理的ケア：プライバシーの保護や配慮など気遣いに関すること、意図的なコミュニケーション
- ② フィジカルアセスメント：観察、バイタルサインの測定、身体診査に関すること
- ③ 自立への援助：残存機能の活用、ADLの拡大等自立を促す指導・教育、意思決定の尊重に関すること
- ④ 感染予防：感染予防の必要性、スタンダードプリコーションに基づく行為に関すること

IV. 目的1について

1. 研究方法

- 1) 調査対象：岩手県内看護基礎教育機関（三年課程）8校の教科責任者および授業担当者
- 2) 調査方法：面接調査。発言内容をその場で記録しデータ収集を行った。

3) 調査内容：

- (1) 「清潔」の単元の授業に関する事項①授業時間数②授業方法③4つの「共通技術」である「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」「自立への援助」「感染予防」が講義・演習にどのように組み込まれているのか、について。

4) 分析方法：

- ① 看護基礎教育機関ごとに「清潔」の単元の調査内容を整理する。
- ② 「清潔」の単元の授業に関して4つの「共通技術」の用語の定義で述べた内容に一致する内容を抽出する。

5) 調査期間：平成13年11月～12月

- 6) 倫理的配慮：研究の趣旨、内容などを対象校の教科責任者に説明し協力を依頼し、授業担当者の承諾が得られた学校を対象とした。

表1 「清潔」単元の概要（平成13年度の状況）

項目／教育機関	A	B	C	D	E	F	G	H
授業時間数（時間）	14	24	8	12	20	20	36	36
学生定員（1学年）	60	35	90	22	24	40	50	40
演習担当教員（人）	3～4	1	5～6	6	1	1	2	1
演習で「事例」を設定	無（他の時間で有）	有	有	無	無	有	無	無
演習内容	手浴・足浴・洗髪	○	○	○	○	○	○	○
	石鹸全身清拭	○	○	部分	○	○	○	○
	陰部洗浄（モデル）	排泄で	○	排泄で	○	○	○	○
	口腔ケア	食で	○	食で	食で	○	○	○

2. 結果

1) 「清潔」の授業における教育方法の概要

岩手県内看護基礎教育機関（三年課程）8校の清潔の授業に費やしている時間数は、最も多い学校が36時間、少ない学校が8時間と学校間で差があった。時間数の少ない3つの学校は陰部洗浄が排泄の単元に、口腔ケアが食の単元に含まれていた。この3つの学校は3人以上の教員で演習を担当していた。1人で演習を担当している学校は4校であった。また演習の際事例を設定し、グループワークを取り入れている学校が半数の4校にみられた。設定事例は様々であるが、どの学校でも、「物品を準備しなさい」「この患者の足浴をしなさい」「洗髪をしなさい」など実施事項が指示されていた。グループワークを取り入れている場合は、レポートや話し合いの時間、技術チェックなどは規定時間外の空き時間や放課後の時間を自主学習の形で活用しているのが現状であった。演習の内容では、8校中7校が石鹸全身清拭を行っていた（表1）。

2) 授業への4つの「共通技術」の取り込み状況

8校の清潔を担当している教員に、「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」「自立への援助」「感染予防」にあてはまるような内容はどのようなことがあるのかを質問した。

「心理的ケア」では、講義で心理的意義や患者の意思の尊重、声かけ、説明を行う、ケア時の表情の観察反応などについて教授しているが、演習では個々の学生の判断に任せられていた。プライバシーの保護という視点でのスクリーンの使用、不必要な露出を避けるについては注意を払っていた。「フィジカルア

セスメント」では皮膚・粘膜・頭皮の解剖生理と観察事項について講義はしているが、演習に意図的に取り組んでいるとする回答は2校であった。「自立への援助」に関しては、講義で患者の状況に応じた援助方法を選択するよう教授しているとする回答が6校、そのうち演習で事例を設定し、考えさせると回答したのは1校であった。「感染予防」における手袋着用については講義・演習で教授していた。それは口腔ケア、陰部のケア、白癬のある患者の足浴、看護者自身に傷がある場合であった。

演習で用いる物品に関してはシャンプーの各自持参が圧倒的に多く、次いで石鹸、タオルを個人持ちとしていた。しかしこれに関しては、感染予防というよりも個人の好みに合わせて、という意味合いの方が強いという回答が多かった。

V. 目的2について

1. 研究方法

1) 調査対象：研究者が所属している5校のうち、調査開始時点でまだ「清潔」の単元の授業が始まっていない岩手県内基礎教育期間（三年課程）3校の1年生計161人。

なお、A校は「清潔」の授業が開始目前であり、すでに授業担当者が授業の準備をすすめていたので、対照群として協力を得た。

2) 調査方法：従来の授業を実施したA校と考案した授業を実施したB・C校の学生に授業前と後に同じ事例（表2）を提示し、その事例について援助前・援助中・援助後の留意点

表2 「清潔」授業の設定事例

Aさん。55歳。女性。夫55歳。夫は会社員で現在単身赴任中、息子1人27歳、1年前結婚し、他県（遠方）に住んで居るため、Aさんは1人暮らし、犬を大変可愛がっていた。専業主婦であり、サークル活動にも積極的に参加。スキーをするのが楽しみである。11月初旬、朝の犬の散歩中、公園の階段から落ち、通りがかった人の連絡により救急車で入院した。右腓骨骨折と全身打撲。骨折部位は腫脹が強いためギブスを巻かず、シーネ固定し、安静の保持が必要。本人の強い希望で車椅子でトイレに連れて行ってもらう。その際、患肢を下げると痛がる。

入院4日目に患者のケアを担当。右下腿を動かすと強い痛みを訴える。ベッド上安静の状態である。食事は全量摂取しているが、ふだん生活の中で食事は脂っこいものを食べないように気をつけているとのこと。入院時にシャワーもだめと聞いてがっかりしていた。サークル活動の友人達が見舞いに時々きてくれるが、「お風呂に入れないので、におわないか心配。」と話す。また「ベッドに寝ている状態が長いので背部が汗ばんで気持ちが悪い。」と訴えている。

※日本看護協会出版会制作：看護技術学習支援シリーズ「基礎看護学」の事例を一部修正

- を自由記述させた。
- 3) 分析方法：記述内容から意味を持つ文章を取り上げ、研究者全員の合意のもとで分析を行った。
- 1つのまとまりのある意味をもつ文章を1つと数え、記述内容を4つの「共通技術」と「その他」に分類し、それぞれについて学生1人あたりの授業開始前と授業終了後の平均文章数の差（授業後－授業前）を算出した。さらに学校ごとの平均文章数の差を算出し、その学校平均値からA校とB、C校を比較した。検定はT検定を用いた。
- 4) 調査期間：平成14年6月～平成15年1月
- 5) 倫理的配慮：調査にあたり、調査の趣旨、参加の有無により成績には関係のないこと、最初の授業開始前および授業終了後で比較するため、同一者の記載用紙とわかるように、自分だけでわかる数字や記号などを記入してほしいことを口頭で説明、記入してもらった。同意の意思の有無を確認し、同意の得られたもののみを調査の分析対象とした。

2. 結果

清潔の授業担当者のインタビュー結果から、4つの「共通技術」が講義では教授しているものの、演習では身体的援助を中心とした手順の習得に偏る傾向があることがわかった。

そこでB・C校の教員は、作成した事例の「清潔」の援助についてグループ討議させ、その演習計画に基づき技術演習を行う授業を展開した。その際教員は、4つの「共通技術」を認識して助言している。この単元の開始前と終了後にこの事例の援助（前・中・後）の留意点を自由記述させた。また比較する上で、従来の教

授法を展開したA校の学生にも、清潔の単元の授業開始前と終了後に同じように事例を提示し、自由記述させた。自由記述の内容の例は次の通りである。「心理的ケア」では「羞恥心を最小限に心がける」「寒くないように気をつける」「できるかぎり声かけをして患者さんとコミュニケーションをとる」など。「フィジカルアセスメント」では「痛む部位がどうしたら痛むのかをしっかりと観察把握する」「腫脹の状態を観察する」など。「自立への援助」では「Aさんの希望を取り入れる」「時間帯を確認し、自分でできるところがあるか聞いて、できる範囲で自分でやっていただく」など。「感染予防」では「スタンダードプリコーションに基づく援助をする」「片づける際には感染予防の観点から汚水をこぼさないようにする、肌に触れていた面は内側に丸める」など。どれにも含まれないものを「その他」としてまとめた。それぞれに文章数を算出し、A校とB及びC校を比較検討した。なお、3校の「清潔」の授業の時間配分等は表3のとおりである。

表3 清潔の単元の授業形態について

	学 生 (人)	担当教員 (人)	講義 (時間)	学生間の 討 議 (時間)	技術演習 (時間)
A校	64	3	1.5	0	9.0
B校	25	2	1.5	7.5	6.0
C校	91	6	0	3.0	4.5

- 1) 学校の授業開始前と終了後の文章数の比較
3校の授業の開始前と終了後の文章数の平均は、図1～3のとおりである。どの学校も開始前の記載が一番多かったのは「心理的ケ

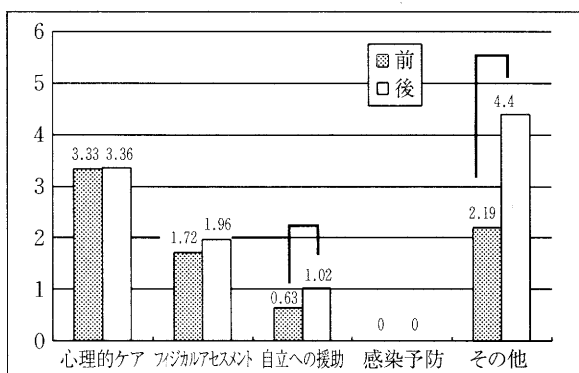


図1 A校の授業前後の1人平均の文章数
N=54 *p<0.05 ***p<0.001

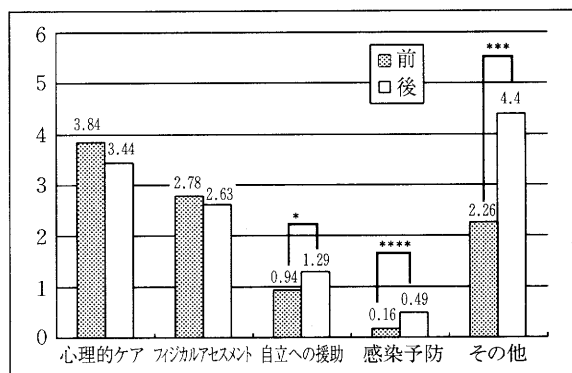


図3 C校の授業前後の1人平均の文章数
N=91 *p<0.5 ***p<0.001 ****p<0.000

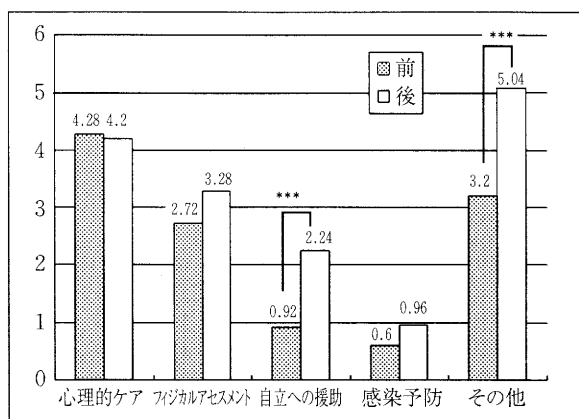


図2 B校の授業前後の1人平均の文章数
N=25 ***p<0.001

ア」であり、次いで「フィジカルアセスメント」である。C校においてはこの2つの項目は授業終了後の方が文章数が減少している。「感染予防」に関する内容はどの学校も平均文章数が1に満たなかった。「自立への援助」は文章数自体は少ないが、授業前に比較し3校とも授業後の文章数が多く、有意差(A・C校(p<0.05), B校(p<0.001))が認められ

た。また「その他」は手順や方法などの記載であるが、この項目においても3校とも授業終了後の増加が著しく有意差(p<0.001)が認められた。なおC校においては「感染予防」も終了後の文章数が多く、有意差(p<0.000)が認められた。

2) 従来の授業A校と試みの授業を行ったB・C校との比較

同じ学生の単元開始前後での文章数の変化をみるため、終了後の文章数と開始前の文章数の差を算出した。そして一人一人の文章数の差について、学校毎に平均を算出し、その平均値で3校比較をした(表4)。数が極端に少ない「感染予防」を除いた3つの項目を比較してみると、いずれの学校も授業開始前の文章数の平均値が多かった順に「心理的ケア」次いで「フィジカルアセスメント」「自立への援助」である。しかし、終了後の文章数が授業開始前よりも数が多く、その差の大きさを比較すると、最も文章数の差が大きかったのは「自立への援助」であり、次いで

表4 授業前後(授業終了後-開始前)の文章数の比較 ()はSD

項目	A校 N=54		B校 N=25		C校 N=91	
	前後の差	前の文書数	前後の差	前の文書数	前後の差	前の文書数
心理的ケア	0.06(2.16)	3.33(1.86)	0.04(3.35)	4.28(2.99)	-0.46(3.16)	3.84(3.11)
フィジカルアセスメント	0.20(1.50)	1.72(1.51)	0.56(2.06)	2.72(1.99)	-0.12(1.87)	2.78(1.85)
自立への援助	0.33(1.24)	0.63(0.85)	1.32(1.82)	0.92(1.26)	0.50(1.18)	0.94(0.96)
感染予防	0	0	0.44(1.19)	0.60(1.08)	0.34(0.72)	0.16(0.90)
その他	2.24(2.63)	2.19(2.12)	1.64(2.53)	3.20(2.45)	2.00(3.26)	2.26(2.19)

「フィジカルアセスメント」「心理的ケア」の順となっている。授業前後の文章数の差を学校間で比較した結果、文章数の平均増加数に有意差 ($p < 0.01$) が認められたのは、「自立への援助」ではA校0.33とB校1.32の間、及び「感染予防」ではA校0とB校0.44、及びA校0とC校0.34の間であった。

VI. 考 察

教育内容の充実を図るために、「清潔」の単元に焦点をあて、岩手県内の看護基礎教育機関での教育内容の現状を4つの「共通技術」という視点から把握し、そこから得られた課題を解消するための方策として、授業を考案し、2校ではあるが実施した。従来の授業で実施した1校の協力を得て比較検討を行ったが、その結果に基づき考察する。

1. 岩手県内の看護基礎教育機関の「清潔」単元の授業の実態から

調査した学校は三年課程という共通点はあるが、学生数や教員数、カリキュラムの組み立て等状況は異なっている。調査の対象となった「清潔」の単元についてもいろいろな内容であった。しかし教員の「清潔」の授業で教えたい内容は共通しており、授業数が少ない学校は時間外を使い学生の自主学習という形で、技術演習を行っている状況であった。そして学校によって事前学習の課題を出したり、講義は最小限とし事例を提示してグループワークを取り入れたり、実施後レポート提出をさせて患者の気持ちの部分を意識化させたり、学生自ら学ぶように工夫を重ねていた。我々がキーワードとした4つの「共通技術」という視点から教授内容を見直してみると、これらの内容は講義には含まれてはいるものの、演習では教員の関心が手順や手技、物品に集まっており、せっかく事例を使っても、知識・思考の部分と手技とが分離がちであるのが現状であった。講義の内容が演習に十分生かされておらず、それを統合するのが実習の場であるとの考えがあるように思われる。このことは、大学における基礎看護技術教育の課題として取り上げられた「1. 今後ますます増加するであろう必要とされる技術からの教育内容の厳選。2. 教育内容の多様性に対応

する演習の再考の必要性。3. 限られた時間の中で必要な内容を教授するための効果的な教育方法。4. 臨地実習につなげるための教育の工夫⁷⁾という提言とも一致しており、「共通技術」を取り入れた新たな授業方法の開発の意義は大きいと考える。

2. 「共通技術」を取り入れた「清潔」単元の授業を試みて

「共通技術」を取り組む授業はどうあればいいのか、ディスカッションを重ねた結果、事例を用いること、グループワークを取り入れること、が適当ではないかという結論を得た。そこで4つの「共通技術」を意識できるような事例を作成し、第2段階の調査を実施するに至った。その結果をみると、プライバシーの保護や配慮などの気遣いに関する「心理的ケア」は、4項目の中で授業開始前も終了後もいずれも文章数が多く、前後の差は最も変化が少なかった。この「心理的ケア」は相手の気持ちを押し量る意味合いが強く、さらに清拭で相手の肌に触れるという、健康な若い学生にとっては、非常に気を遣う内容であることが一因であると思われる。それぞれの学校において、項目の授業前後の平均文章数の比較をみると、「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」は授業前後において有意差は認められなかった。しかし「自立への援助」「その他」は、授業後の平均文章数が授業前の平均文章数より多く、いずれも有意差が認められた。「自立への援助」に関しては、特に試みの授業を行ったB校の授業終了後の増加は著しい。C校はB校ほどの増加ではないものの、「心理的ケア」「フィジカルアセスメント」の文章数が授業終了後減少していることを考えると、「自立への援助」の文章数が増加し有意差が認められたことは関心が高かった現われと思われる。一般的に、清拭の演習では石鹸での全身清拭の学習を重視しているため、清拭をする際の設定が就床患者に限定している。試みの授業で展開した事例は、骨折の患者を設定したため、患者がどの程度動けるのか、患者の意思はどうか、など考えられやすい状況だったことが「自立への援助」への関心が高くなった原因であると考えられる。

この「自立への援助」のところで、授業前後の文章数の差を学校間でみてみると、A校に比

較しB校の文章増加数が非常に多く、A校とB校に有意差 ($p < 0.01$) が認められたことは、今回の事例展開の成果ではなかったかと思われる。

同様に「感染予防」についてA校は文章数0のためにA校とB校、A校とC校とで授業前後の文章数の差をみると、それぞれ有意差 ($p < 0.01$) は認められるものの、平均値自体が低く数名の学生が気づいた結果の現われともいえる。記述が少なかったのは、タオルの個人使用や後片づけを感染と結びつけて教授していないため、「感染予防」を意識した記述が認められなかったのではないかと思われる。

VII. おわりに

今回考案した事例を用い、グループワークで展開するこの授業自体は、これまでも多くの方々が行っている方法である。それは人間をケアするための看護技術であることを重視するがゆえの工夫である。しかし教員はそのつもりでも、せっかく事例を用いながら洗髪をしなさい、というように指示したり、最初に物品を準備させたりする指示の出し方は、学生にそのことだけに興味を向けさせてしまうことになってしまうだろう。この授業で何を学ばせたいのか、「共通技術」を明確に教員が意識することで、従来の看護技術の教え方に新しい視点を見出すことができたという感触を得ることができた。「共通技術」を意識することは、臨地実習と講義・演習とが遊離しないようもっていく、という意味でも有効であると思われる。この方法を実際どう使うのかは、それぞれの学校の事情にあわせ採用していけばいいだろう。この授業の弊害として、グループによる学習成果の格差、討議に時間がとられ手技を学ぶ時間が相対的に少なくなる、ということがあげられる。これまで明らかになっているグループ学習の教授法の新たな試みを参考に取り入れていくことで対応できるのではないかと思われる。

VIII. 引用文献

- 1) 山崎美恵子、長戸和子：クリティカルに考える能力の育成 看護系大学における看護技術教育，インターナショナル ナーシングレビュー Vol. 25, No2, 36-40, 2002
- 2) 小松美穂子：看護技術教育の課題 現代学生の特性を踏まえた教育，インターナショナル ナーシングレビュー，Vol.25, No.2, 41-44, 2002
- 3) 森山美知子、田村やよひ：厚生労働省の考えるこれからの看護技術教育 現状の分析から，インターナショナル ナーシングレビュー，Vol.25, No.2, 57-61, 2002
- 4) 桃田寿津代：新卒者教育が直面する課題と困難，看護展望，Vol.28, No.4, 417-423, 2003
- 5) 竹尾恵子、亀岡智美：看護基礎教育課程における看護技術教育の展望と課題—国立看護大学校における実際を一例として—，看護展望，Vol.28, No.4, 447-455, 2003
- 6) 研究代表者 兼松百合子：医療の進歩と看護ニーズの変化に対応する「基礎看護学」の教育内容の検討—大学の場合—，平成11年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究C2）研究成果報告書，2001
- 7) 高橋有里他：医療の進歩と看護ニーズの変化に対応する「基礎看護学」の教育内容の検討—基礎看護技術科目の分析から—，岩手県立大学看護学部紀要，Vol.3, P113-120, 2001

Abstract

In general, basic nursing skills can be divided broadly into three categories : 'nursing skills used to support the patient's every-day life', 'nursing skills used to support medical treatment', and 'common nursing skills'.

Instruction in existing nursing classes concentrates on each of these categories independently, but it is thought desirable that 'common nursing skills' be incorporated into the instruction of 'nursing skills used to support the patient's every-day life', 'nursing skills used to support medical treatment'.

'Common nursing skills' comprises a range of skills (including communication, safety and comfort, prevention of infection, education and guidance, and nursing process, at all) but for the purpose of this study, particular attention was paid to the areas 'psychological care', 'physical assessment', 'support of the independence of the patient', and 'prevention of infection'.

A case study was designed in which the topic 'hygiene' (one of the elements contained within the category 'nursing skills used to support the patient's every-day life') was combined with the four 'common nursing skills' areas listed above. A trial class was held to investigate the effectiveness of the case study as the new methodology, using existing classes as the control.

As a result, it was suggested that the trial classes had the greatest beneficial effect on the area 'support of the independence of the patient'.

key words : basic nursing skills, common nursing skills, teaching of the nursing support skill 'hygiene'